

はじめに

ハマフエフキ (*Lethrinus choerorhynchus*) はフエフキダイ科に属し、沖縄県沿岸の岸礁域や砂地に生息、主として一本釣や底延縄で漁獲されている。沖縄県における昭和46～50年のタイ類の漁獲量は年間909～1.431^tとなっており、その中でハマフエフキは2～3割(181～429^t)を占め、沿岸における魚種別漁獲量では上位にランクされる。また市場では高価格で取り引きが行なわれているため、沖縄県における沿岸漁業の重要魚種の一つとされている。

ハマフエフキ種苗生産に関する研究は昭和51年度から県単事業として開始されたが、初期飼育の段階で種々問題点があり安定した飼育技術の確立までには至っていない。今年度は天然親魚の採捕養成、自然産卵による採卵、ふ化および仔稚魚飼育に関する試験を行なったのでここに報告する。